旅立ちを前に最後の贈り物

熱気と笑顔に包まれた三送会

２月27日(火)の午後、第一体育館で53回生の三送会が行われた。身体を張った先生達の出し物や１・２年生の歌やダンス、漫才などで会場は大盛り上がりだった。（編集部共同取材）

全ての演目が終わり、会場に向かって手を振る３学年の先生達

２月27日(火)第一体育館にて三送会が行われた。３年生が音楽に合わせて入場すると在校生が手拍子で出迎えた。ステージ上のスクリーンに合わせ会場の全員がカウントダウンが始め、体育館は熱気に包まれた。

三送会盛り上げたパフォーマンス

カウントダウン後、３年生になじみ深い先生たちで構成されたバンド「キューティー婆ニー」。前川陽子の『キューティーハニー』を演奏し、三送会の幕を切る。曲中の「ハニーフラッシュ！」と叫ぶ部分では会場からも叫ぶ声が聞こえてきた。その後、軽音楽部の「epafi」が「KANA-BOON」の『シルエット』を演奏。笑顔あふれるノリのいい曲で会場を沸かせた。

その後も漫才、硬式テニス部の歌とダンスなど、様々なパフォーマンスが会場を盛り上げる。中でも体操部のステージでは、ただ技を披露するだけでなく顧問の仁井先生が向かってくる敵を倒していくという寸劇となっていた。華麗な技を繰り出していき、ひとつひとつの技が決まるたびに歓声が響く。それぞれのパフォーマンスの合間では、司会の中西弘哉くん(２K)が一発ギャグや歯ブラシを回す芸を披露し、会場を絶えず笑いで包んでいた。

笑いと感動のビデオレター

続いて水口裕太くん(３B)ら映画研究部が作成したビデオレターが上映された。ドラマ「相棒」や「ブルゾンちえみwithB」の先生たちによるパロディーなどが披露され、完成度の高さに生徒たちも盛り上がった。ポカリスエットのCMのダンスでは、ダンス部と先生が本家にも劣らない完璧な踊りを見せる。「プロフェッショナル 仕事の流儀」ではパロディーとはいえ、阿部先生が教師として「いろいろ失敗してもなにかそこから学べることがある」など、真剣に語っていた。また、３年生にゆかりのある先生たちを始め、保健室の先生、事務の方々、食堂のみなさんからそれぞれ心のこもった言葉が贈られた。宿泊研修や修学旅行でのビデオが流れると思い出に浸る三年生の姿が見られた。

ヒーローショー張りのアクションを見せる体操部と仁井先生

ビデオレターの後は再び舞台での演目が始まった。三学年の先生たちが大なわとびに挑戦。きれいにそろって飛ぶごとに歓声が上がった。その次は知恵の輪、皿回しなどが披露され、成功するたび拍手が起きる。そして、先生みんなでタンバリンをならしながら音楽にのってダンス。会場の雰囲気は最高潮に達する。最後に三年生代表として松尾紗也香さん(３H)が、涙ぐみながら阿部先生に花束を贈った。そして阿部先生は「３年間苦しいことも楽しかったこともあったけど、みんなとここまでこれてよかった」と感謝の言葉を贈る。会場は暖かい拍手に包まれ三送会は閉幕した。

大成功の三送会

実行委員長の菅原彩乃さん(２E)は今回の三送会を「前日までいくつか失敗があったにものの、本番は大きな問題も来無く終えられてよかったです」と話す。今年の三送会は司会が登場するタイミングが違うなど、去年と異なる点が多かったそう。しかし出演者はもちろん、委員や先生方、手伝ってくれた人が助けてくれたおかげで成功させることができたと語る。菅原さんは最後に「後輩にいい形で引き継ぎ、来年もいいものになればいいなと思います」と笑顔で話した。

全員で盛り上げた合唱「祭」

今年の合唱祭はどのクラスもクオリティが高く、また例年以上の盛り上がりで、まさしく「祭」と呼べる行事となった。

全体合唱「COSMOS」は練習時間の都合でパート関係なく歌うこととなったが、男女の声がうまく重なり合い、合唱祭の始まりを飾るのにふさわしい合唱になった。

１年生の部、金賞に輝いたのは「ハナミズキ」を歌ったC組。アカペラやソリなど、アレンジが加えられた合唱は迫力があり観客を圧倒。伴奏が終わるとすぐに惜しみない拍手が送られた。

２年生の部で金賞を受賞したB組が歌った曲は「ヒカリ」。最初に「原爆投下直後の絶望から、自然を尊び平和のヒカリを求めるという情景を思い浮かべながら歌います」と曲紹介があり、力強い歌声と伴奏で曲は始まる。重厚で表現力に富んだ合唱で観客を魅了した。

生徒の合唱が全て終わると、サプライズで先生方の合唱が行われた。歌った曲は「キン肉マンGo Fight！」。先生方が壇上に立つと生徒からは盛大な歓声が上がり、先生たちは少し恥ずかしそうな様子だった。

美女と野獣のパフォーマンスで賞を勝ち取った２E

今年から、結果発表の際に納富先生が踊り、生徒を沸かせた。先生１人ひとりの個性が光る合唱は大歓声で幕を閉じた。

受賞クラスが歌った曲の伴奏が演奏された。１Cの「ハナミズキ」を演奏した上村日奈子さん(２H)は「弾く曲を３日前に伝えられたので結構バタバタでした」と振り返る。本番、どのクラスが選ばれてもいいよう７人ほどが待機していたという。上村さんの担当は３曲だったが「誰が弾くか直前まで分からず不安だった。来年はよりスムーズに動けるといいと思います」と話した。来年はより良い合唱祭を期待したい。（泰）

生徒への思いを込めた記念品

今年度の卒業記念品はポータブルステージ(いわゆる演壇)３台だ。

３学年の学年主任の阿部一郎先生によると、記念品は昨年11月からPTAと先生の間で何度も話し合いが行われ決められたという。今使われている演壇は20年以上前から使われているもの。老朽化していたため、ポータブルステージを記念品にすることとなった。受注制で高さを変えられるタイプのもので、実物は５・６月頃に届くそうだ。球技大会の表彰や式典、文化祭のクラス劇などで使うことができると思いますと阿部先生。

「生徒のためのものだから、色んなところでどんどん使ってほしいです」と話してくれた。（鴇）

「記念品をどんどん使ってほしい」と語る阿部先生

三年生へ最高の送り出しを

２月26日(月)に三送会の企画をしていたという。モチーフはパズルのピースだ。「３年間の思い出がピースになっているように描きました」と溝口さん。

３年C組でHR委員として準備に携わっていた玉野井太志くん(１C)は「窓ふきをやるために新聞紙を用意しているクラスがあって、ここまでくると、自分が３年生の立場だったら嬉しいと感じるだろうなと思いました」と話す。

溝口友海さん(１C)は一週間前ぐらいから黒板アートのりだくさん。黒板全体にハートがちりばめられている。さらに橋本さんは「マッドハンターとアリスのお茶会の様子を描いて、お祝いというイメージを出した」と工夫を話してくれた。（橙）

感謝の気持ちを黒板に表す

「おめでとう」と書かれた皿を回す先生たち

ダンス部、冬の舞台で舞い踊る

２月２４日(土)にダンス部ウィンターステージが行われた。開演の１０分以上前からホールの内で待っている人も多く、席が足りなくなる程の観客が詰めかけた。

開幕直前にステージからダンス部の掛け声が聞こえ、会場の熱気が高まった。オープニングではテンポが良く、明るい曲に合わせたダンスで観客を沸かせる。その後も男子の洗練された振り付けや躍動的なダンス、女子のなめらかながらもキレのあるダンスで圧倒。ダンス部OBの発表ではステージに手招きをする振り付けを入れ、観客も共に盛り上がっていく。バク転やブレイクダンスも披露し、会場は拍手と歓声に包まれた。女子のスローダンスは今までとはうって変わってゆったりとした曲調と、流れるような動きで優雅さを感じさせた。歓声を上げながら見ていた観客も美しいダンスに魅了されていた。

エンディングではそれぞれがカラフルな衣装を着て、あふれる笑顔で楽しそうにダンスを披露。今回のテーマである「花」を持ちながら客席の近くで踊る部員もいた。ステージに戻る際には持っていた花を観客に手渡すシーンも見られ、会場の盛り上がりは頂点に達する。閉幕後、観客は感想を話し合いながらホールを後にした。（天）

早変わりの衣装で観客を驚かせた２年のダンス

むらさき草

昨年から話題の吉野源三郎作『君たちはどう生きるか』。ジャーナリストの池上彰氏も大絶賛というポップを見た時、不意にある苦い記憶を思い出しながら本屋に並ぶこの本を手に取った▼去年の秋、とある高校生対象の討論会に参加した。国連大学という壮麗な会場もさることながら、幼い頃からの憧れである池上彰氏が特別講師を務めるとあって心は浮き立っていた▼ところが、いざ始まった議論ではきちんと意見を言おうとするあまり、ほとんど手が挙げられなかった。周りの人は次々と当てられていくのに、結局自分は一人、何も言えぬまま。人生で一番楽しみだった日は、虚しさが入り混じった後悔で満ちた▼『君たちはどう生きるか』の中で主人公コペルくんが友人と仲違いをして深く悩んだとき、母親はこんな話をしている。女学生の頃、石段で重い荷物を運ぶおばあさんを見た彼女は「次に止まったら声をかけよう」と思うが何も言えず、結局迷惑げに一瞥される。どうして思ったことを行動に移せなかったんだろうって。あの時ぐずぐずしてしまった自分は、心の中ではっきりと残っているの」▼筆者はここまで読んだとき「だからこそすぐ友達に謝りにいくように」と諭す場面が続くとばかり思った。だが、実際は違った。忘れられないのが嫌？と息子に尋ねられた彼女はこう答えた。「ううん。将来自分の中に、少しでもきれいな心が湧いてきたら、『今度こそそれを生かさなきゃ』って、きっと何度も背中を押してくれるから」。そしてコペルくんは翌日、学校で友人たちと見事に和解し、元通りの日常を再び歩み始めた▼どんな忌々しい思い出だろうと、そのような経験があるかないかでは、案外人生は大きく変わっていくのかもしれない。高校だけでなくこの先、どんなに上手くいかないことがあっても、愛すべき失敗たちを自分の糧にして、新たな季節へと大きく羽ばたいていきたい。私たちは、どう生きるか。（湊）

錦城高校新聞

題字 井口 文章

卒業おめでとう版

印刷・発行

錦城高等学校新聞委員会２０１８

みんなでつくる錦城高校新聞

ま３大 53

53回生、ご卒業おめでとうございます！
大変なことがあっても錦城で過ごした３年間を思い出して頑張ってください。
また錦城に遊びに来てください。待ってます♪